

出題分析			
試験時間	100 分	配点	200 点
		大問数	4 題
分量 (昨年比較)	[減少] 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化] 同程度 難化]
【概評】 全 4 題を通じて、誘導付き問題の比率が高く、小問の流れに乗れるかが合否を分ける構成である。〔Ⅰ〕は確率と極限、座標変換による二次形式の処理と、分野横断的な思考力が問われる。〔Ⅱ〕は積分方程式から導関数の関係式を導き、他の関数の微分との一致に気付かせる巧みな誘導が光る。〔Ⅲ〕は放物線の接線・法線を軸に、(4)で領域の上下関係の把握と重い積分計算を課している。〔Ⅳ〕は連立漸化式を差の数列に帰着させる典型手法に加え、 e に収束する極限公式の活用まで問う総合問題である。全体として、典型手法の習熟だけでなく、誘導の意図を読み取る力と正確な計算力が強く求められるセットといえる。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
〔Ⅰ〕 (1)	〈空欄補充形式〉 確率 極限	確率と極限に関する問題。類題経験の有無で差が付いたのではなかろうか。〔ア〕や〔イ〕の誘導を活かして〔ウ〕と〔エ〕を解いていく。	標準
(2)	恒等式 三角関数 ・三角関数の合成	二次形式の最大値を求める問題。最大値は円と直線および曲線が共有点を持つ条件から求めることも可能だが、三角関数を用いる方が計算量は少なくなる。	標準
〔Ⅱ〕	〈記述形式〉 微分法 ・積の微分法 ・合成関数の微分法 積分法 ・積分方程式	定積分で表された関数についての問題。(2)は $\frac{d}{dx} \int_a^x f(t) dt = f(x)$ (a は定数) を用いる。誘導が丁寧なのでそれに従って解き進めていけばよい。	やや易
〔Ⅲ〕	〈記述形式〉 微分法 ・接線の方程式 ・法線の方程式 積分法 ・面積	直線と放物線で囲まれる図形の面積を求める問題。全体的にややこしい計算が現れ、(4)では $\frac{1}{6}$ 公式の利用に気付かないとかなりの計算量になる。思考力よりも計算がメインであり、その計算量が非常に多い。	やや難

〔IV〕	〈記述形式〉 数列 ・漸化式 極限 ・ e の定義	連立漸化式と極限に関する問題. 数列 $\{a_n - b_n\}$ が等比数列, 数列 $\{2^n a_n\}$ が等差数列であることから一般項 a_n, b_n を求める. (4)は $\left(\frac{a_n}{b_n}\right)^n$ を $\lim_{n \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{1}{t_n}\right)^{t_n} = e$ が利用できる形に整理する.	標準
------	---	---	----

過去3年間の出題範囲

過去3年間の出題範囲								
年度	数学 I				数学 A			
	方程式・不等式	集合と論証	2次関数	三角比	場合の数 確率	平面図形	数学と人間の活動	
2026					1			
2025					1			
2024					1			
年度	数学 II						数学 B	
	高次式	複素数	図形と方程式	三角関数	指数対数	微積	数列, 数学的帰納法	
2026	[1](2)			[1](2)		[3]	[4]	
2025	[4]		[2]				[4]	
2024				[3]			1	
年度	数学 III				数学 C			
	関数	極限	微分	積分	平面ベクトル	空間ベクトル	複素数平面	2次曲線
2026		1, [4]	[2], [3]	[2]				
2025		1	[2], [3]	[3]			[1](2)	[1](2), [2]
2024		1	[2], [3], [4]	[2], [3]		[4]	[1](2)	

※ []内の数字は大問番号, ()内の数字は小問番号をそれぞれ表す.

合格のための学習法

まず, 教科書の基本事項と典型問題を徹底的に習熟することが土台となる. 本試験では誘導に沿って解き進める形式が多いため, 日頃から「前の小問の結果をどう次に活かすか」を意識した演習が不可欠である. 次に, 計算力の強化である. 過去問演習では時間を計り, 解ける問題を正確に解き切る訓練を重ねてほしい. さらに, 複数分野の知識を結び付ける問題が頻出するため, 分野を縦割りにせず, 横のつながりを意識した学習を心がけたい. 基礎の盤石さと実戦的な演習量が合格への最短経路である.